

施設ナスへの炭酸ガス施用の効果を高める管理方法

炭酸ガス施用方法

無換気時

- ・設定濃度は800ppmとする

ハウス内が高温となり、換気する時

- ・側窓による換気を行う
- ・換気時の設定濃度は400ppmとする
- ・さらに温度が上がったら、換気扇による換気を行い、施用は停止する



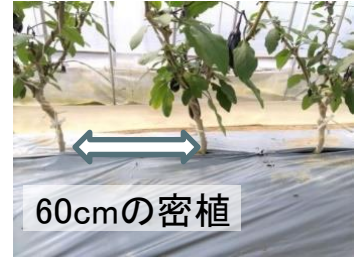
側窓を優先して使う



さらに高温のとき換気扇を使う

注)これらの操作を行うには、統合環境制御装置が必要です

株間とマルチ



光の競合をシルバーマルチで緩和し、果皮の着色等の品質を向上する

開発のねらい

施設ナス栽培では生産費の上昇により生産者の経営が圧迫されており、単位面積当たり収量を増加させて所得を向上させることが求められています。

そこで、産地にも導入が進みつつある炭酸ガス施用の効果をもさらに高めるため、換気時の炭酸ガス施用方法と、株間等の栽培条件を検討しました。

新技術の概要

- 無換気時は、日射量に関わらず800ppmを維持するように施用します。
- 換気は側窓を優先して使い、さらに高温のとき換気扇を使います。
- 側窓による換気時の炭酸ガス濃度は外気並みの400ppmを維持するように施用し、換気扇が動くときは施用を停止します。
- 株間は、従来よりも密植の60cmとすることで収量が増加します。
- 密植とすることによる果皮の着色不良を緩和するため、シルバーマルチを使用します。

活用場面

県内の施設ナス生産に活用できます。増収によって管理、収穫作業時間が増加しますが、着果のためのホルモン剤処理が不要な、単為結果性品種を導入することによって作業時間の短縮が期待されます。